○チョウセンニワフジ(大井次三郎)：Jisaburo Ohwi: *Indigofera kirilowii* Maxim. in Kyushu

中島一男氏の対馬島植物誌予報（植雑 **56**: 344. 1942）には対馬島の神崎にチョウセンニワフジ(*Indigofera kirilowii* Maxim.)が報告されている。国立科学博物館にも標本があるが果実のときのもので余りはっきりしなかったので，日本植物誌では *I. koreana* Ohwi かも知れないとの疑を残しておいた。数年前に長崎県平戸の平松信夫氏からこれに似た平戸島産の生品を頂いたが，さらに大村市の外山三郎氏から同島および黒髪山産の標本を恵まれた。黒髪山のものには田代善太郎先生がチョウセンニワフジと呼んでいたとのノートが加えられてある。平松氏の生品は鉢植にしたところ，次第に衰えてきたので，江本義数博士の庭に植えて頂いたが，本年は勢いよく開花したので，以前から小石川植物園に栽培の朝鮮原産のものと比較することができた。植物園のものは葉



図 1. 平戸島産のチョウセンニワフジ.

も花も大きく，花はほぼ一ようのうす紅色で，旗弁には外面縁辺近くに白色の短毛があるが，九州産のものは私がかって *I. koreana* Ohwi と呼んだ形に近く，葉も花も小形で，花は旗弁がほぼ白色で，その茎部近くのみが他の花弁とともにうす紅色となり，外側には全面に白い短毛がはえている。萼は花後に皿形に開き，歯は低三角形で短かい。葉は卵形または広だ円形で，下面には伏毛があるが，上面には無いかまたはほとんどなく，毛の点では *I. koreana* のそれと正反対である。この植物の変異を考えると，これらはみな一種にして *I. kirilowii* Maxim. チョウセンニワフジにあててもよいように思われる。終りに江本博士と平松，外山両氏に厚く感謝する。(国立科学博物館)